

あきらめない。揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ。

黒潮町地震・津波防災計画の基本的な考え方



高知県沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、100〜150年周期で大きな地震が繰り返し起こっています。

南海地震は避けて通れませんが、だからこそ、地震や津波と向かい合い、うまく付き合いつながら暮らしていく必要があります。

黒潮町では、住民の命を守ることを第一に、以降を基本的な考え方として、防災計画の見直しを行います。

防災教育・啓発

とにかく、揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ、一人ひとりが一生懸命逃げる防災教育・啓発および訓練を徹底して行います。

避難ユウゴ

1 避難所の整備

すべての住民の皆さんに避難していただくために、立場所など

に応じて避難所に2段階の安全度（安全度A・安全度B）を設置し、地震発生時の状況に応じて、一人ひとりが、より安全なレベルの避難所を目指して、最善の判断で逃げるができる避難施設の整備を図ります。

まずは、全域で安全度Bの避難所整備を目指し、長期計画の中では、すべての住民が安全度Aの避難所へ避難することが可能な防災まちづくりを目指します。

安全度A

平成24年3月31日の2012中央防災会議公表値（レベル2の津波Ⅱ1000年に一度の頻度で発生する最大規模の津波）に対応できる避難所

安全度B

平成23年3月11日後の黒潮町基準（レベル1の津波Ⅱ100〜150年に一度の頻度で発生する津波。標高約20m）に対応できる緊急避難所

2 避難路の整備

津波浸水域から徒歩で安全度Aの高台避難所へ逃げる時間が見込めない地域については、車で避難することも想定した幹線避難路（大動脈避難路）の整備を図ります。液状化が見込まれる地域の場合は、液状化対策を検討します。また、地下シエルトなどの新技術による津波防災施設については、安全性が確認されれば積極的に取り組みます。

施設整備

1 防潮堤・河川堤防

レベル1の津波に対応でき、レベル2の津波に対し浸水時間を遅らせることができる防潮施設整備を国や県に要請します。

2 公共施設

住民の命を守るためには、地震発生後も行政の指揮命令機関は必ず機能しなければならぬと考えます。今後整備する拠点の公共施設

設は、レベル2の津波浸水域外に建設します。

3 住宅の高台移転

レベル2の津波に対する安全確保が困難な住宅地については、地元住民の意向を踏まえて長期計画を定め、段階的に高台や内陸部に新たな住宅地の形成を目指します。

なお、町営住宅については、耐震基準を満たさない施設も多くあることから、早期に高台移転を目指します。

また、浸水区域外の中山間地域への移転など、防災と中山間活性化の両面を備えた制度の創設を目指します。

4 保育所・学校

浸水時間までに安全度Aへの避難可能な避難施設整備を早急に行うとともに、計画的な避難訓練を行います。

また、長期計画の中では、可能な限り早くレベル2の津波浸水域外への施設整備を目指します。

5 緊急通報システム

地震・津波観測システムの整備を国に要請するとともに、黒潮町情報通信基盤施設を活用して、通常時は防災意識の向上に活用し、地震発生時はより早い情報の伝達、被災後にも情報伝達がとぎれない仕組みの構築を目指します。

連携・協定

○南海地震対策に特化した、町職員の地域担当制を導入するとともに、町内の消防団管轄区域ごとに地域防災組織の強化を図ります。

○地方自治体や関係機関と、被災地を広くで支援する協定の締結を進めるとともに、民間企業や団体との協定強化を図ります。

○1週間を自力でしのげる危機管理の備えを目指します。



地域担当制が

始まりました

今年5月から、地震・津波に関する情報をすばやく広く住民に伝え、住民とともに防災対策に取り組むことを目的に、南海地震対策に特化した町職員の地域担当制が導入されました。

地域担当職員は、町内の消防団を基に、14班に配置しています(下記参照)。地域住民の皆さんとともに、左記のような活動を行ってまいりますので、ご理解ご協力をよろしく願います。

【地域担当職員の役割】

- 地震・津波に関する情報をすばやく広く伝えます。
- それぞれの地域に合った防災計画の策定に向けて、地域住民と共に避難所・避難路の計画や現地調査を行います。
- 区長(地域住民)、自主防災組織、消防分団、学校など、地域全体の組織化を目指します。
- 地震に関する地域の伝承や言い伝えを調査します。

■黒潮町職員地域担当制

班	消防団	自主防災組織名(行政区)	班長	班員人数
1	拳の川分団	市野瀬、佐賀橋川、拳ノ川、拳ノ川団地、荷稻、川奥、小黒ノ川、中ノ川	矢野雅彦	10人
2	伊与喜分団	不破原、市野々川、市野々川団地、伊与喜、熊井、藤縄	大塚一福	10人
3	鈴分団	鈴	浜田仁司	8人
4	佐賀分団	熊野浦、上分、坂折、馬地、下分、町分、大和田、浜町、明神、会所、横浜、白浜、かしま荘	森田貞男	32人
5	伊田分団	灘、伊田浦、伊田郷	松本輝雄	6人
6	有井川分団	有井川、シーサイドホーム	武政 登	6人
7	上川口分団	上川口浦、上川口郷、王迎、王無	金子富太	18人
8	蜷川分団	蜷川	酒井益利	6人
9	鞭分団	浮津、鞭、口湊川、奥湊川	米津芳喜	11人
10	早咲分団	早咲、本谷、大屋敷、大井川、小川、田村、加持本村、誠心園	宮川茂俊	12人
11	入野分団	浜の宮、町、万行、入野本村、芝、錦野	浜田 啓	43人
12	田の口分団	馬荷、大方橋川、御坊畑、上田の口、緑野、下田の口	松田 二	17人
13	田野浦分団	田野浦、生華園	松田博和	13人
14	出口分団	出口	森下昌三	8人

※保育士・校務員は職場を基本に配置。他は出身地や住所を基本に配置し、人数が偏らないよう調整。
 ※南海地震対策担当職員(松本敏郎、川田和徳、渡辺大和)は事務局を担当。